

楷樹 (カキノキ) に記念プレート設置



【完成した記念プレート】



【今春 移植後、新芽を吹いた楷樹】

ソフィア建設当時から磐周教育を見守る楷樹の由来

先輩方の尽力で、由緒ある足利学校(栃木県)から苗木を譲り受けた。

楷樹 (カキノキ)

ウルシ科

学名 トネリバハゼノキ 雌雄異株

この楷樹は、平成10年(1998年)磐周教育研究所の落成を記念して足利学校(栃木県)から贈られたものである。

楷樹は、孔子の弟子が孔林(孔子の墓所)に植えたことから孔子ゆかりの木として、「学問の木」と呼ばれる。

日本では、大正初期に白澤保美氏(樹木学者)が孔林から種子を持ち帰り、後に湯島聖堂(東京)、足利学校(栃木)、閑谷学校(岡山)に植えられた。

研究所のシンボルツリーとして大切に育てていきたい。

次頁資料から、磐周教育に懸ける先人の熱い想いをお読みください。

磐周教育研究所の楷樹（カイノキ）の由来

令和2年12月

苗木寄贈者：杉木 浩 様（栃木県足利市）

史跡・足利学校の楷樹（カイノキ）の育苗・普及活動に尽力。

その功績を認められ、中国山東省曲阜市長から感謝状。

亀山氏（愛知県東栄町）宅に楷の苗木を自ら届けられたこともある。

依頼人： 亀山 正夫 様（愛知県東栄町 元校長）

三高邦夫様（元佐久間町立浦川中学校長）のご実兄。

浜松師範学校で故・中村四郎様（元袋井中学校長）と同級生だった。

平成4年、国指定無形文化財東栄町「花祭」に来られた関東方面の観光客一行を案内した縁で交流を深めるうち、楷樹の普及活動に専心されている杉木氏と知り合い、楷樹の普及活動に賛同・傾倒された。

1 寄贈の経緯

平成10年、元磐周校長会事務局長 故・渡辺朝美氏は、故・三高邦夫氏（元浦川中学校長）からご実兄・亀山正夫様が楷樹の普及活動をされていることを聞き、磐周教育研究所の落成記念に由緒ある足利学校の楷樹（苗木）の寄贈をお願いしたものである。

その際、45本の苗木をいただき、磐周地区の学校や教育委員会などにも植えられた。磐周教育研究所には2本、東側入口の南北両側に植えられたが、残念なことに南側の苗木は育たなかった。

2 移植の経緯

令和2年2月、入口北側では生長した楷樹には狭小だったこともあり、折しも磐周教育50周年「繋ぐ 次の五十年へ」の精神のもと、これからも磐周教育を見守り続けてほしいとの願いから研究所のシンボルツリーとして前庭の中央に移植した。

3 日本への渡来・普及

大正4年、東京林業試験場長 白澤保美博士が中国山東省の孔林から種子を持ち帰って育て、足利学校、湯島聖堂、閑谷学校へ植えたのが始まり、その後全国の孔子廟等に植えられるようになった。

今では、皇居、文部科学省などにも植えられ、平成9年には、日本国憲法施行50周年記念樹に選定され、国会議事堂前庭、衆参両院に植えられた。

改めて、私たち磐周教育研究所の楷樹は、大正時代に白澤博士に育てられ、足利学校に植えられた由緒ある楷樹の子孫である。先輩方の磐周教育に懸ける熱い想いが伝わってくる。磐周教育研究所のシンボルツリーとして、未来永劫、大切に育てていきたい。

本文は、研究所保管の書簡等の資料に基づき作成した。（文責：廣田 茂）